

Title	登山者カウンターを用いた白山国立公園の登山者動態分析
Author(s)	横内, 伸泰; 敷田, 麻実
Citation	野生生物保護学会第11回大会プログラム・要旨集: 38-38
Issue Date	2005-11
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16901
Rights	Copyright (C) 2005 「野生生物と社会」学会. 横内伸泰, 敷田麻実, 野生生物保護学会第11回大会プログラム・要旨集, 2005, p.38.
Description	

登山者カウンターを用いた白山国立公園の登山者動態分析

*横内伸泰・敷田麻実

金沢工業大学

近年、中高年層を中心に登山愛好者が増え、深田久弥に紹介された日本百名山などへの登山者が増加している。特に、北アルプスなど著名な山岳地帯の山々には登山者が集中する傾向がある。その結果、一部の登山道への登山者の集中や混雑が起こり、それによる登山道の侵食や登山道沿いの植生の荒廃が指摘されている。また一部の山岳地帯のオーバーユースも度々指摘されており、山岳地帯の生態系への環境負荷を緩和する工夫は重要な課題だと考えられる。しかし、環境負荷の原因となる登山者の動態把握は活動の性質上難しく、対策を検討するにもデータが不足していた。

本研究では、この問題の解決を検討するため、石川県ほか3県に広がり、国立公園にも指定されている白山(標高2702m)を対象として、登山者による環境負荷の低減と持続可能な利用の実現を図るため、登山者の分散化や平準化などを検討することを目的とした。

白山の一部地域では、マイカー規制や宿泊施設の予約制を取り入れているにも関わらず、年間4-5万人の登山者が訪れている。特に人気の高い登山道では、「踏み分け道」、「拡大」、「踏み跡」などの人為的影響が顕著で、オーバーユースが懸念されてきた。本講演では、その経過を報告し、利用頻度が高い登山道の登山者を分散化及び平準化する提案を行う。

登山者の動態調査は、2005年5月から10月まで、白山の主要5箇所の登山口で行った。登山者が必ず通過する登山道の入口に、赤外線方式の「自動の入・下山者通行量計測機」を設置して、登山者の通行時刻と人数の24時間連続計測を行った。その結果、調査期間中の登山者数は10月6日現在で36,686人おり、そのうちの73%が山頂までの最短ルートである登山道(砂防新道)を利用していた。また上りの登山者は72%が5時から9時に集中し、下山者は10時から16時に88%が集中していた。

今回のカウンター調査では、登山者の動態や特徴的な利用パターンが把握できることがわかった。今後は、この調査結果を基にいくつかの提言をまとめると共に、より効率的な調査機器の開発やリアルタイムでの情報提供なども視野に入れた研究を進める。

コンタクトオーサー

横内 伸泰：金沢工業大学 環境システム工学科

〒924-0838 石川県白山市八束穂 3-1

金沢工業大学 環境システム工学科専攻 敷田研究室

Tel 090-6816-6492

Email: yokouchi-413@eagle-net.ne.jp